

(中間評価)

知の頂点に向かって加速！東大プラン

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：東京大学（総括責任者：濱田 純一）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画

当該部局において計画に則った採用を行うことにより、5年目の在籍女性研究者(比率)を、理学系で49名(8.7%)、工学系で59名(6.9%)、農学系で32名(8.7%)とする。

(2) 女性研究者養成のための取組内容

新規養成女性研究者に限らず、女性研究者が独立して研究が遂行できる環境を整備するとともに、出産・育児の際の研究支援員の雇用等を積極的に実施する。

(3) 期待される効果

世界的にもトップレベルに位置する東京大学において、女性研究者を加速度的に養成・輩出することにより、広い範囲の女性研究者の増加とレベルアップに寄与できる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	取組の内容	システム改革	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

総長裁量ポストを活用した女性限定公募の実施、公募要領への男女共同参画の積極的取組の明記等により、計画を上回る新規養成女性研究者の採用を進めており評価できる。さらに、女子学生比率 30%を目指し、増加対策についても全学で取り組んでいる点が評価できる。

・**進捗状況**：新規養成女性研究者の採用を順調に進め、女性研究者の採用割合が特に低い理工学系で採用を推進している点が評価できる。今後は、理学系、工学系分野における女性研究者比率の目標値達成を期待する。

・**取組の内容**：総長裁量ポストを活用した教員の女性限定公募を実施し、研究科ごとに女

性教員採用計画を明確化し具体化したことは、大規模大学における取組として評価できる。教員の女性限定公募においては、公募条件を幅広く設定することにより一般公募と変わらぬ質と数の応募者が得られている。さらに、自主経費による人件費充当比率が高いことも評価できる。

・**システム改革**：総長裁量ポストによる教員の女性限定公募、ライフイベント支援、工学系研究科における特別助教ポストの設置と承継ポストへの移行推進等、全学的、組織的にシステム改革に取り組んでおり評価できる。

・**実施体制**：研究科ごとに女性研究者の採用計画を明確化し、実施する体制は評価できる。さらに、男女共同参画事務担当者が個々の新規養成女性研究者に対しきめ細かい支援を実施する体制も妥当である。

・**今後の進め方**：事業実施期間中の新規養成女性研究者採用目標の達成、取組の継続性が期待できる。実施期間終了後の取組については、具体的な計画を立案し、更なる全学的な男女共同参画の実現に取り組むよう期待する。